法政大学学術機関リポジトリ
HOSEI UNIVERSITY REPOSITORY

PDF issue: 2024-12-26

なし

(発行年 / Year)
1910

ナキニ非サルナリ

第六百九十七條

（理由）本條ハ例ニ依リ別段ノ定アキトキハ本節ノ規定ヲ適用セサルコトヲ得ルコトヲ示スト共ニ契約ノ性質又ハ公益ニ關スル規定ハ其例外ヲタルコトヲ規定シタルモノナリ

第十三節　終身定期金

（理由）本節ハ既成民法財産取得編第七章第二節ニ該當ス既成法典第七章射倖契約トシテ共一部分トシテ第二節ニ終身年金權ニ關スル規定ヲ爲セリ佛蘭西、西班牙ノ民法、バイエルン民法草案等モ亦此ノ如クナレトモ本案ニ於テハ特ニ射倖契約ナル表題ヲ設ケサルナリ何トナレハ射倖契約一般ニ通スル總則ヲ置カサルニ此特別ノ表題ヲ設クル必要ナケレハナリ猶賃貸借契約ナル表題ヲ設ケスシテ直チニ賣買交換等ノ事ヲ規定スルカ如シ

既成法典ニハ終身年金權トアリシヲ改メテ終身定期金トシタリ即チ既成法典ヲ改メタル點ハ第一權ノ字ヲ削レルト第二年金ヲ定期金トシタルニアリ權ノ字ヲ削ルヘキハ殆ント說明ヲ要セス年金トアリシヲ定期金トシタルハ我國ノ慣習トシテ年金ノ外六ケ月毎ニ若クハ月賦等ニテ金錢ヲ支拂フコト亦多キヲ以テナリ而シテ茲ニ定期金トシ定期物トセサリシハ此契約ノ目的ハ多クハ金錢ニシテ金錢以外ノ物件ナルコト極メテ稀ナルカ故ナリ決シテ金錢以外ノ物件ノ定期納付ヲ除外スルノ主意ニアラス時效及ヒ抵當ノ規定ニ於テ定期金ト言ヘルモノト同一ナリトス

第六百九十七條　終身定期金契約ハ當事者ノ一方カ自己、相手方又ハ第三者ノ死亡ニ至ルマテ定期ニ金錢又ハ其他ノ物ヲ相手方又ハ第三者ニ供與スルコトヲ約スルニ因リテ其效力ヲ生ス

（理由）本條ハ既成民法財產取得編第百六十四條乃至第百六十七條ヲ併合シテ之ニ修正ヲ加ヘタルモ

ノナリ左ニ其重ナルモノヲ掲ケン

一、取得編第百六十四條第一項ニハ終身年金權ハ有償ニテ設定スルヲ得トシ第二項ニハ無償ニテ設定スルヲ得トシ第三項ニ於テ元本ノ上ニ留存レテ之ヲ設定スルヲ得トスレトモ元本ノ上ニ留存レテ設定スルハ有償設定ノ一種(草案ニハ之ヲ無償設定トセリ)ナルヲ以テ特ニ之ヲ掲クルヲ要セサルナリ且又單ニ設定スルヲ得ト云フトキハ有償無償何レニ因ルモ之ヲ設定レ得ヘキコト明カナルヲ以テ殊更ニ分チテ之ヲ規定スルノ要ナカルヘシ

二、同第百六十五條第二項ニ要約者ト得益者トノ間ニ在テハ贈與ノ規則ニ從フト雖モ贈與ノ方式ニ從フコトヲ要セストセリ此ノ如クスルトキハ往々之ニ因リテ贈與ニ關スル規定ノ適用ヲ免レントスル者ノ出ツヘキヲ以テ同條ハ寧ロ削除スルヲ可トス

三、同第百六十六條第二項ニ契約カ有償ナルトキハ其成立ニ付キ第三者ノ承諾ヲ必要トスト言ヒ其理由トスル所ハ此場合ノ終身年金ハ第三者ノ生命ヲ期スルモノナルヲ以テ債務者ニ於テハ第三者ノ成ルヘク速カニ死センコトヲ希セ爲メニ第三者ノ生命ヲ危フスト言フニアレトモ第三者ノ終身ヲ期限若クハ條件トシテ契約ヲ取結フコト他ニ多クアルモ夫カ爲メニ第三者ノ危害ニ遭遇セシ例極メテ尠ク法律モ亦一般ノ場合ニハ第三者ノ承諾ヲ必要トセサルニ因リ特別ノ理由アルニアラサレハ終身定期金ノ場合ニ於テモ之ヲ必要トスヘキニアラス假ニ草案ノ唱フルカ如キ理由アルモノトスレハ何ソ此規定ヲ無償契約ノ場合ニモ適用セサルヤ之ヲ有償契約ノ場合ニ限リレハ其何ノ故タルヲ知ルニ苦ム殊ニ契約ノ成立ニ第三者ノ承諾ヲ必要トレナカラ其承諾前ニ辨濟シタル年金ヲ取戻スヲ得サルモノトセルニ至リテハ益々解シ難キ所ナルヲ以テ第二項ニ關シテハ大ニ修正ヲ加ヘタリ

此ヨリ削除レタル條文ヲ擧ケン

取得編第百六十八條第一項ハ當然言フヲ待タサル所ナルヲ以テ之ヲ削除レタリ

同第百六十九條及ヒ第百七十條ハ終身年金權ヲ讓渡スコトヲ得ス且差押フルコトヲ得サルモノト定ムルヲ得ルコトニ關シテ規定セリト雖モ特別ノ契約ヲ以テ債權ノ讓渡ヲ禁ス得ルコトハ既ニ債權ノ總則ニ規定シタル所ナレハ終身定期金ノ場合ニ之ヲ再言スルノ要ナシ又之ヲ差押フルコトヲ得サルモノト定ムルノ如何ハ民事訴訟法ノ規定ニ讓ルヘキヲ至當トスルヲ以テ右ノ二條ヲ全ク削除シタリ

第六百九十八條　終身定期金ハ日割ヲ以テ之ヲ供與スルコトヲ要ス但別段ノ定アルトキハ此限ニ在ヲス

(理由)本條ハ既成法典財產取得編第百七十二條第一項ト其主意ヲ同シウス第二項ノ規定ハ之ヲ採フスシテ總テ別段ノ定メニ委スルコトトセリ

取得編第百七十一條ハ言フヲ待タス第百七十四條ハ債權者ニ對シテ酷ニ過クルノ觀アリ且證據法ノ適用ヲ以テ足レリトスルニ因リ右ノ二條ハ之ヲ削除シタリ

第六百九十九條　定期金債務者カ定期金ノ供與ヲ怠リ又ハ其他ノ義務ヲ履行セサルトキハ相手方ハ定期金ノ元本トシテ債務者ニ與ヘタル財産ノ返還ヲ請求スルコトヲ得但既ニ受取リタル定期金ノ中ヨリ其財産ノ價額ノ利息ヲ控除シタルモノヲ債務者ニ返還スルコトヲ要ス

前項ノ規定ハ損害賠償ノ請求ヲ妨ケス

（理由）既成法典財産取得編第百七十二條ニハ債權者ハ解除ノ權利ヲ留保セサルトキハ年金支拂ノ欠缺ノ爲メ契約ノ解除ヲ請求スルコトヲ得ストシ其例外國ニ多シト雖モ終身年金ノ契約ニ限リテ當事者ノ解除權ヲ奪フノ理由ナキヲ以テ本案ハ此點ニ關シテ既成法典ノ主義ヲ改メタリ既ニ解除權ヲ與フルトキハ他ニ財産差押ノ權ヲ與フルヲ要セサルヲ以テ同條第一項ノ後段及ヒ第二項ハ之ヲ削除セリ

既成法典財産取得編第百七十五條ニハ債務者カ擔保ヲ供セサルトキハ債權者ハ契約ヲ解除シ自己ノ取得シタル年金ハ之ヲ返還セストスレトモ一旦解除ヲ許シタル以上ハ特別ノ理由ナキ限リハ其原則ヲ貫キ債權者ヨリシテ其既ニ取得シタル年金ヲ返還セシムルコトトスヘシ同條第三項ハ本案ノ主義ニ反シ且判官ノ所爲ニ干渉スルノ規定ナルヲ以テ之ヲ削レリ

同第百七十六條第一項及ヒ第二項ハ言フヲ待タス第三項ハ本案第百六十六條及ヒ第百六十九條ノ例外ナルモ之ヲ例外トスヘキ理ナシ第四項ハ時效ノ規定ト重複セルモノナリ何レモ之ヲ置クノ理由ナキヲ以テ同條ハ全然之ヲ削除セリ

第七百條　第五百三十一條ノ規定ハ前條ノ場合ニ之ヲ準用ス

（理由）前條ノ規定ニ因リテ債權者ハ元本ノ返還ヲ請求シタル時ハ既ニ受取リタル定期金ヲ返還スヘキモ若シ債務者ヨリ元本返還ノ提供ヲ爲スニアラサレハ之ニ充チテ定期金ヲ拂フヲ要セサルモノトスヘシ雙務契約履行ノ總則ニ於テ既ニ此種ノ原則ヲ明カニ定メタルモ前條ノ契約ノ履行ニアラサルヲ以テ當然其適用ヲ受クルヲ得サルニ因リ本條ヲ設ケテ明カニ之カ準用ヲ爲シ得ルコトヲ示セリ

第七百一條　死亡カ定期金債務者ノ責ニ歸スヘキ事由ニ因リテ生シタルトキハ裁判所ハ債權者又ハ其相續人ノ請求ニ因リ相當ト認メタル期間債權ノ存續ヲ宣告スルコトヲ得

前項ノ規定ハ第六百九十九條ニ定メタル權利ノ行使ヲ妨ケス

（理由）本條ハ既成法典財産取得編第百七十七條第二項及ヒ第三項ニ修正ヲ加ヘタルモノナリ既成法典ハ有償ノ場合ト無償ノ場合ヲ區別シ前ノ場合ニ於テハ債權者ニ解除權ヲ與ヘ後ノ場合ニ於テハ債權ノ存續ヲ請求シ得ルモノトセルモ寧ロ之ヲ同一ニシ何レノ場合ニ於テモ債權ノ存續ヲ請求シ得ルヲ原則トシ尚ホ債權者ノ意ニ因リテハ契約ノ解除ヲ請求シ得ルヲ可ナリトス

第七百二條　本節ノ規定ハ終身定期金ノ遺贈ニ之ヲ準用ス

（理由）終身定期金ヲ設定スルニ遺贈ヲ以テスルコト多ク或國ノ如キハ唯遺贈ヲ以テ之ヲ設定スル場合ノミニ關シテ規定ヲ爲セル程ナリ遺贈ヲ以テ定期金ヲ設定セルトキ契約ヲ以テ之ヲ設定セルトノ間ニ區別ヲ附スベキ理由ナキカ故ニ本案ニ於テモ本節ノ規定ヲ遺贈ノ場合ニモ準用スルコトセリ

第十五節　和解

（理由）本節ハ既成法典財産取得編第五章ニ該當スル其削除シタル條文ヲ左ニ掲クヘシ

同編第百十一條ニハ和解ハ法律ノ錯誤ノ爲メ之ヲ銷除スルコトヲ得ストセルモ本案ニ於テハ既ニ一般ノ原則トシテ錯誤ハ銷除ノ理由トセサルコトトシタルヲ以テ特ニ同條ノ如キ條文ヲ要セサルニ至レリ

同第百十二條及ヒ第百十三條ニハ當事者カ或重要ナル事實ヲ知ラサルカ又ハ之ヲ誤ルトキハ事實ノ錯誤ヲ理由トシテ和解ヲ銷除スルコトヲ得トセルヲ削除シタリ是レ本案ニハ錯誤ヲ銷除ノ理由トセサルニ因レハナリ假ニ一般ノ原則トシテハ錯誤ヲ銷除ノ原因ト認ムルモノトスルモ和解ニ關シテハ特ニ之ヲ拒マサルヲ得ストナレハ和解ハ私ニ爭ヲ決スルモノニシテ和解ノ前ニハ事實ノ不明ト權利ノ不確ハ素ヨリ常ニ存シオルヲ假定スルモノナレハナリ

第七百五條　和解ハ當事者カ互ニ讓歩ヲ爲シテ其間ニ生スル爭ヲ止ムルコトヲ約スルニ因リテ其效力ヲ生ス

（理由）本條ハ既成民法財産取得編第百十條第一項ニ修正ヲ加ヘタルモノナリ既成法典ニ於テハ和解ハ交互ノ讓合又ハ出捐ヲ爲シテ云々ト言ヘトモ重複ニ失スルノ嫌アルヲ以テ改メテ單ニ讓歩トシタリ次ニ同條ニハ既ニ生シタル爭ヲ落著セシメ又ハ生スルコトアル可キ爭ヲ豫防スル契約ト云ヘルヲ以テ或ハ爭ノナキニ和解ノ生レ得ルカ如ク解セラレテ不都合ナルカ故ニ此亦本條ノ如ク改メタリ

同條第二項ハ本案ノ主義ニ基キテ之ヲ削除ス

第七百六條　當事者ノ一方カ和解ニ依リテ爭ノ目的タル權利ヲ有スルモノト認メラレ又ハ相手方カ之ヲ有セサルモノト認メラレタル場合ニ於テ其者カ從來此權利ヲ有セサリシ確證又ハ相手方カ之ヲ有セシ確證出テタルトキハ其權利ハ和解ニ因リテ其者ニ移轉シ又ハ消滅シタルモノトス

（理由）本條ハ既成法典財産取得編第百十四條ニ相當シ而シテ大ニ既成法典ノ主義ヲ改メタル所アリ卽チ同條ニハ和解ハ爭ノ目的タル權利ニ付テハ確定判決ト等シク認定ノ效力ヲ生スルモノトシ當事者ハ其權利ヲ從前ヨリ保持シ居ルモノト看做スト雖モ此ノ如ク爲ストキハ和解ノ效果ヲ減少シ當事者ハ往往和解ニ由リテ十分ノ利益ヲ得ルコト能ハサルニ至ラン然レトモ又他ノ極端ニ走リ和解ヲ以テ全ク付與的ノ效アルモノトスルトキハ當事者カ和解ノ以前ヨリ有シ居リシ權利モ亦和解ニ因リテ得タルモノノ如クナリテ事實ニ反スルニ至ラン其何レニモ偏セシテ若シ和解ノ當事者ニシテ初メヨリ其權利ヲ有スル確證アルトキハ初メヨリ之ヲ有スルモノトシ初メニ有セサリシ確證出テタルトキハ和解ニ因リテ之ヲ取得セシモノトシ消滅ニ關シテモ亦此ノ如ク解スルトキハ當事者ノ保護ハ足

リテ而モ事實ト合スルモノトナフレ本案ハ此主義ニ基キテ本條ヲ設ケタルナリ

同條第二項ハ爭ノ目的タラサル權利ノ供與ニ關スル規定ニシテ特ニ明言ヲ要セサルモノナルヲ以テ之ヲ削除シタリ

第三章　事務管理

（理由）本章以下ハ契約以外ニ於ケル債權發生ノ原因ヲ規定スルモノニシテ殊ニ本章ハ既成法典ニ於テ不當利得ニ關スル規定ノ一部トシテ單ニ財產編第三百六十二條及ヒ第三百六十三條ノ二條ニ規定シタル事務管理ノ爲メニ特ニ設ケタル一章トス蓋シ既成法典カ事務管理ニ關スル規定ヲ不當利得ノ下ニ掲ケタル理由ハ種々アリト雖モ主トシテ沿革上ノ理由ニ基ツクモノノ如ク羅馬法ニ於テハ委任ナクシテ他人ノ事務ニ干涉スルコトハ一ノ過失ナリトシ又第十八世紀ヨリ第十九世紀ノ始ニ於テ個人主義カ盛ニ行ハレ自己ノ事務ハ各自之ヲ處置スヘク他人ノ事務ニ干涉スルハ一般ニ不法ナリト認メタルヨリ諸國ノ立法例ハ一時此主義ヲ採用シ墺太利民法ハ委任ノ部ニ於テ他人ノ事務ニ委任ナクシテ干涉スルハ不法ナリトノ前提ヲ置キテ以下其結果ヲ規定シ普國國法モ亦之ト同一ノ主義ヲ採用セリ然ルニ近世ニ至リ各人交通ノ狀況カ一變スルニ從ヒ民事上商事上共ニ或場合ニ於テハ委任ナキモ他人ノ事務ヲ管理スルコトハ取引上ノ便益タルニ止ラス本人ニ取リテ有益ニシテ且必要ナルコトアルヲ覺リ法律上ノ通則トシテ事務管理ナルモノヲ認メ之ヲ以テ不法不當ト爲ササルニ至リシト雖モ一旦他人ノ事務ニ干涉スル以上ハ必ス相當ノ責任ヲ負ハサルヘカラストシ遂ニ事務管理ハ債務ノ淵立原因タルコトヲ認メ從テ近世諸國ノ法典ハ之ニ關スル規定ヲ不當利得ノ下ニ掲ケサルニ至レリ然ルニ既成法典ハ尙ホ舊套ヲ墨守シ起草者ハ羅馬法ノ原則ヲ採用セストニ云フニ拘ハラス事務管理ニ關スル事項ハ概子不當利得ノ原則ニ依リテ聽明シ得ヘシトシ卽チ不正當ノ管理ヲ爲シ若クハ事務管理